

# IR Report

証券コード: 4462

## 石原ケミカル

### スマホ製造に欠かせない 製品で世界トップシェア 日本初、世界初を数多く 手掛ける化学メーカー

スマートフォンやパソコンの製造に欠かせない「めっき液」。  
その中でもスズおよびスズ合金めっき液の世界トップシェアを誇るのが  
石原ケミカルだ。卓越した開発力で、日本初、世界初の製品を数多く  
生み出してきた。現在も、自己開発、商品開発、市場開発の  
「三つの開発」を企業理念に掲げ、新たな製品の市場開拓を推進中だ。

**電子部品接合用の  
各種「めっき液」が  
売上の半分を占める**

1900年（明治33年）に創業。123年の歴史を持つ老舗企業である石原ケミカル。創業当初は医薬品・工業薬品の卸会社だったが、53年、米国から輸入したシリコンで楽器・家具用液状つや出し剤「ユニコン」の製造・販売を開始。59年には国産初のクリーム状自動車用つや出し剤「ユニコンカークリム」を世に送り出した。  
祖業の「工業薬品」や、つや出し剤などの「自動車用品」は、現在も重要な事業。ポートフォリ

オの一角だが、売上高の半分を占めるのは「めっき液」などの「金属表面処理剤」である。めっき液とは、スマートフォンやパソコンなどに搭載する半導体および電子部品をプリント基板と接合する、導電性を持った金属の接着剤のようなもの。かつては、有害なカドミウムを原料とするめっき液が主流だったが、同社はより安全なスズめっき液を日本で初めて64年に発売した。99年には、世界初の鉛フリーめっき液を製品化。環境にやさしい金属表面処理剤として世界中から支持されている。

現在、石原ケミカルが電子部品向けに提供するスズおよびスズ合金めっき液は、世界トップ

**「三つの開発」で  
人材の能力を高め  
市場を切り拓く**

数多くの日本初、世界初の商品を世に送り出してきた圧倒的な開発力が、何よりの強みだ。同社は、自己開発、商品開発、市場開発の「三つの開発」を企業理念に掲げている。自己開発とは、社員が自らの能力を高めること。商品開発とは、その能力によって新しい商品を生み出すこと。市場開発とは、生み出

**将来性は？  
自動車用化学製品の  
販路を中国、台湾など  
海外に広げていく**

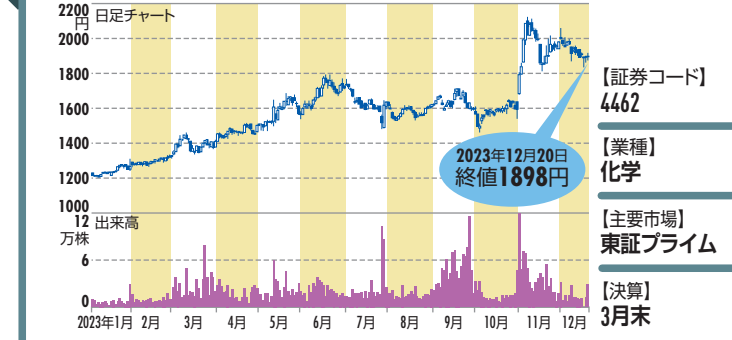
現在進行中の中期経営計画では、主力である金属表面処理剤の市場を拡大しつつ、隣接分野や新市場への参入で、「プラスアルファの売上を創造する」という目標を掲げている。

隣接分野の一例が、半導体の進化とともに、さらなる需要が期待できる銅めっき液だ。デジタル化の急速な進展は、同社にとって大きなチャンスとなる。

一方、新市場への参入として

は、自動車用化学製品の海外市場での拡販を目指している。現在は国内向けが中心だが、中国、台湾、韓国、東南アジアなどに販路を広げていく計画だ。経営指標は、中期経営計画最終年度の26年3月期までに売上総利益率35%以上、経常利益率15%以上、ROE10%以上を目指す。

## 自己株式の消却もあり 11月に株価が急伸!



23年10月末に自己株式の消却に関するリリースを配信。それを受けて株価が急伸した。株主優待や増配予想などの手厚い株主還元策と、好調な業績も相まって、堅調な株価上昇が期待できる。

業績(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	利益	1株益(円)	1株配(円)	
	21.3	16,967	1,705	1,853	1,504	93.66	21.5
	22.3	19,036	2,355	2,514	2,049	130.01	26.5
	23.3	20,345	2,139	2,258	1,684	110.32	34.0
会社予想	24.3	21,400	2,700	2,780	2,010	134.45	36.0

株指標	割安度	収益度	成長度		
	予想PER	PBR	予想ROE	予想売上高伸び率	予想売上高伸び率
会社予想ベース 12/20現在	14.1倍	1.31倍	9.2%	13.0%	5.2%

23年10月末に自己株式の消却に関するリリースを配信。それを受けて株価が急伸した。株主優待や増配予想などの手厚い株主還元策と、好調な業績も相まって、堅調な株価上昇が期待できる。

## 株主優待

2000株以上の株主には  
1万3000円相当の優待品!

株主優待が人気だ。200株以上の株主に1000円×2回(中間・期末)、1000株以上の株主に中間2000円+期末3000円のQUOカードを進呈。さらに2000株以上の株主には中間に3000円のQUOカード、期末に1万円相当のグルメギフトを進呈している。2000株以上保有なら、配当と優待で1株当たり42.5円に。23年12月20日時点の株価に基づく配当+優待利回りは2.24%となる。

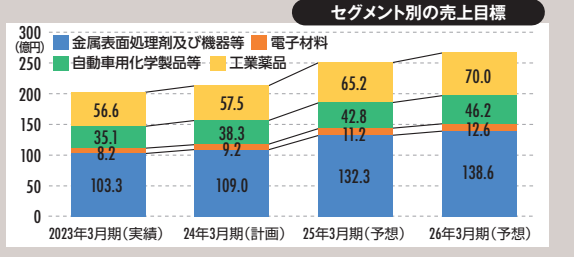


企業サイト <https://www.unicon.co.jp/>

## 中期経営計画

26年3月期に売上高267億円、  
当期純利益33億円へ!

石原ケミカルは現在、26年3月期を最終年度とする中期経営計画を進行中。主力事業の隣接分野の開拓や、新市場への参入などで、最終年度の売上高267億円、当期純利益33億円の達成を目標としている。製品売上高(単体)の10%程度を研究開発費に投入するなど、開発にも力を入れつつ、利益の一部は株主にしっかり還元する方針だ。



## トップインタビュー

安定的かつ継続的な配当で  
株主の皆さまのご期待に応えます

石原ケミカル 代表取締役社長 酒井保幸 (さかいやすゆき)

石原ケミカルが製造・販売する製品の大半はメーカー向けです。そのため、一般のお客さまにはあまり馴染みがないかもしれませんが、個人株主が全体の約4割を占めています。多くの個人投資家の方々が、当社の強みや将来性について深く理解してくださっていることを実感します。

そうした個人株主の皆さまのご期待に応えるため、当社は安定的かつ継続的な配当の実現を目指しております。業績に連動する配当を基本方針としており、24年3月期には36円を予定。5期連続の増配となります。

これからも、株主の皆さまのご期待に応えるべく一生懸命取り組んでまいりますので、何とぞよろしく願います。